

令和3年度 第2回和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会
<議事概要>

【概要】

- ・ 日 時：令和4年3月29日（火）13：30～14：40
- ・ 場 所：和泉市コミュニティセンター1階 中集会室
- ・ 欠席者：松井委員、上田委員、浅井委員、脇田委員、兒嶋委員

【次第】

1. 議案

- 1) AI オンデマンド交通の導入検討について

2. 報告

- 1) 槇尾校区公共交通・通学バス路線の検討状況について
- 2) コミュニティバス停留所の移設について

3. その他

【議事概要】

あいさつ<森吉委員長より、挨拶>

本日は年度末のお忙しい中、本委員会に出席いただき、また、平素より本市、交通行政にご理解とご協力いただき重ねて感謝申し上げます。これまで新型コロナ感染拡大の影響により書面開催が続いたが、本日は対面で開催できることをうれしく思う。

本日はAI オンデマンド交通の導入について多様な観点からご意見いただきたい。また、槇尾校区公共交通・通学バス路線の検討とコミュニティバス停留所の移設について報告する。

本市公共交通の利便性向上により利用促進が図られることを期待したい。本日はよろしくお願ひしたい。

1. 議案

1) AI オンデマンド交通の導入検討について

<事務局より、資料説明>

伊勢議長：事務局からの説明について質問や意見はあるか。

藤間委員：今年の2月に桑名市に先進地視察に行ったとのことであるが、いろいろ情報を得た中で、今後の進め方がまとまっているようであれば教えてほしい。

事務局：まずは令和5年度に和泉市公共交通網形成計画の改定作業を行い、フィーダー系統の位置づけを整理したうえで、令和6、7年度の実証実験を予定している。

関戸委員：北部地域で実証実験を実施するとのことであるが、ピンク色の繁和町のみで実施するのか、それとも資料中の緑の部分も併せて実施するのか。

事務局：現時点では、緑の部分も併せて実施したいと考えている。

関戸委員：実証実験の車両台数と車両タイプの想定があれば教えてほしい。

事務局：バンダーの話であれば、車両は1台で対応可能のことであった。車両はワゴンタイプを想定している。

藤原委員：資料には運賃無料と記載されているが、桑名市、和泉市のどちらのことを意図しているのか。

事務局：視察先の桑名市では実証実験中は無料で運行しており、実験期間中の結果を踏まえ、運賃の価格設定を行い、有料での運行を検討している。また、本市においても同様に実証実験導入時は無料運行を考えており、利用状況を見据えて有料運行を判断していきたい。

伊勢議長：市内には阪和線西側以外にも公共交通空白地域が存在しているが、なぜこのエリアを実証運行の対象としたのか。

事務局：公共交通空白地域に加え、地域からも要望が上がっていたことを踏まえ、対象として設定した。

伊勢議長：阪和線西側以外のエリアへの展開は想定されているのか。

事務局：網形成計画改定時に検討する中でフィーダー路線のあり方を整理して、事業展開の可能性を示していきたい。

河原委員：AI オンデマンドの乗降は全て阪和線西側で完結すると認識して良いか。

事務局：乗降ポイントを定めて阪和線西側のみで完結する予定である。

伊勢議長：阪和線西側は立地適正化計画の都市機能誘導区域に指定され、和泉市の中心市街地として位置付けられていると思う。AI オンデマンドは小需要の地域へ導入傾向が強いと認識しており、中心市街地にはAI オンデマンドより路線バス等が適切なようなイメージを持っている。今回の意図とすれば、まずはAI オンデマンドの実証実験を実施したうえで、地域の公共交通需要を把握し、その結果を踏まえて適切な輸送手段を選択していくという認識で良いか。

事務局：北信太では駅前広場を整備し、徐々に路線バスの環境を整えている。既存の交通との共存の視点を持ちながら検討したい。

伊勢議長：実証実験の結果からAI オンデマンドが適切な輸送手段でないと判断される場合、適切な輸送手段を改めて検討するための取組であれば良い。AI オンデマンドの実証実験においては、本格実施を判断するための評価指標を定めて実施してほしい。持続可能な交通を実現するためには、AI オンデマンドが他の交通サービスの利用客を奪うことにならないよう考慮してほしい。また、実証実験時に無料で運行し、本格運行に向けて有料とした場合、利用者が大きく減少する可能性があるので留意してほしい。

居石委員：実証実験を実施する地域住民の行動パターンを事前に調査しているのか。エリア内の移動の特徴をつかんで実施すべきと思うが。

事務局：桑名市においては、行政サイドで既存の商業施設や拠点施設等の乗降ポイントを定めて運行している。本市では何かしらの方法で地域に確認したうえで乗降ポイントを設定して進めていきたい。

伊勢議長：実証実験から本格運行までのスケジュールをバーチャートで詳細に示してほしい。そうすれば、ニーズ調査をはじめ、必要なことが見えてくるようにも思う。また、桑名市だけでなく、その他の地域での導入事例も確認いただき、紹介してほしい。桑名市は実証実験を終えていると思うが、事業収支を考慮して、運賃をいくらに

設定しているのかわかる範囲で教えてほしい。

事務局：桑名市では地方創生臨時交付金を活用し、AI デマンドの事業費は約 1,700 万円とのことであるが、運行の収支等の詳細についてはヒアリングできていない。桑名市の担当者の話では、当初の利用は少なく、日を追うごとにリピーターが増えたようであり、1 日当たりの利用目標は 50 名と聞いている。運行においては、交通事業者や地元との調整を図り、進めていきたい。

伊勢議長：ぜひ、本格運行を判断するための目標は定めてほしい。実証実験を実施したが本格運行を実施しなかった場合、トラブルになることが懸念される。

事務局：桑名市以外の導入事例については次回の委員会で示していきたい。具体的なスケジュールについては、令和 5 年度に網形成計画の改定を予定しており、その後に実証実験の流れとなるため、早々に示すことは難しい。

伊勢議長：スケジュールについては承知した。じっくり腰を据えて検討いただきたい。AI デマンドの検討について、特に異議はなかったと思うが、ご承認とさせていただいてよいか。

—了承—

伊勢議長：では、次に報告事項に進む。

2. 報告

1) 槇尾校区公共交通・通学バス路線の検討状況について

<事務局より、資料説明>

伊勢議長：学校開校準備委員会のメンバーはどのような方で構成されているのか。

阪下委員：PTA 代表や地域の代表、学校長、教育委員会のメンバーで構成している。

伊勢議長：別の自治体の話となるが、長期休み中における移動手段について保護者からの要望が出ている。その視点が抜けないように留意してほしい。その他、特に意見はないようなので次に進む。

2) コミュニティバス停留所の移設について

<事務局より、資料説明>

伊勢議長：事務局の説明について南海バスから補足等はあるか。

岩佐委員：国府小学校のバス停周辺は朝夕の信号待ちで渋滞が生じており、バス停から出発する際、バスが車線をふさぐ形となり、一般ドライバーからも苦情が挙げられている。また、バス利用者も一般ドライバーから冷たい視線を受けることもあるようである。今回のバス停の移設によって、一般ドライバーのストレスや利用者の不安が解消されることが期待できると思う。

伊勢議長：バス停の移設はいつごろ完了する予定か。

事務局：令和 4 年の第 1 四半期中に対応する予定である。

伊勢議長：その他、意見が無いようであるので、次のその他に進む。

3. その他

・周遊観光バスの開始時期について

関戸委員：当初、令和2年度から周遊観光バスを開始する予定であったが、新型コロナの影響で延期している状況である。令和4年度に実施したいと考えているが、今後の感染状況を見ながら、判断したい。

伊勢議長：運行を開始した場合は、利用状況等を報告いただきたい。

関戸委員：報告していきたい。

・高齢者お出かけ支援事業の実績とアンケート結果の報告について

<佐々木委員より高齢者お出かけ支援事業の実績とアンケート結果を報告>

佐々木委員：令和4年度は支援額を2,000円から3,000円に増額して事業を実施する。

伊勢議長：アンケート調査では、車を利用している高齢者がバスに転換した等の行動変容が把握できる質問は設けていないのか。

佐々木委員：設けていない。

伊勢議長：実際に支援サービスを使用されたのは全体の約4割とのことであり、予算は余ったと思う。昨今の研究においては、日常生活において公共交通を利用している高齢者のほうが公共交通を利用していない高齢者に比べ、後期高齢者になった時の健康状況が良いことがわかってきている。支援の対象年齢を65歳に引き下げ、健康寿命を延ばすことにつながる取り組み等に予算を有効活用できないか検討してほしい。最後に、最近、MaaSをはじめ、様々な言葉が飛び交っているが、これらはあくまでも手段であり、地域がどのような暮らしを望むのかが重要である。手段の導入が目的とならないようにしなければならない。では、進行を事務局にお返しする。

事務局：本日は長時間にわたり熱心にご議論いただき、感謝申し上げます。では、本日の委員会を閉会する。

—以上—

【会議の様子】

